

シエトツケとは「在特会」の韓国語読み。二〇〇六年に結成された「在特会」だが、韓国で「極右の嫌韓団体」として語られるようになったのは、わりと最近のことだ。私自身も一般人の口からこの団体名を聞いたのは、この時が初めてだった。

韓国のメディアで最初に「在特会」の報道を聞いたのは、二〇〇九年の「京都朝鮮学校公園占用抗議事件」の時だったと思う。ただ、この時はニュース報道のみで、いわゆるベタ記事扱い。その後、ドキュメンタリーや報道番組などでも取り上げられたが、一般人々が話題にするほどにはならなかった。だから二〇一二年に彼の父親が最初の松山旅行をした時も、ヘイトスピーチの心配など一切出なかったのだ。

それが今では、放射能汚染問題とともにヘイトスピーチは、韓国人が日本旅行や留学をためらう理由の一つにもなってしまった。たとえば、インターネットのポータルサイトにも、こんな質問が上がっている。

「一月に日本に留学予定ですが、嫌韓、在特会のことや心配です。実際のところはどんなんでしょう？ 現在の在特会の規模、一般市民の嫌韓パーセント、反在特会デモの規模が知りたいです」(二〇一四年七月八日)

これに対して、日本に留学中の大学生から回答が寄せられていた。

「地域によってばらつきはありますが、普通に生活していれば遭遇することはほとんどな

いでしょう。東京の新大久保や関西の鶴橋でデモはあるようですが、警察もいるし、『仲良くしようぜ』と声を上げているカウンターもいます。勉強に支障がでるほどではないので、そんなに心配しなくても大丈夫です」

#### 反日デモと嫌韓デモの違い

私自身も父親の日本旅行を心配する彼に、「松山ではそんなデモに遭遇することはないと思います。地方の人々は親切なので、お父様も楽しく旅行ができると思います」と、少し迷った末に答えた。

彼はそれに「安心した」という代わりに、「日本はどうしてこうなってしまったのか」という話を、今まで一度も聞いたことのないような強い口調で始めた。

「父の影響もあって、私はずっと日本が好きでした。周りがどれだけ日本の悪口を言おうとも、いつもそれに反論していたんです。植民地支配はされた方も悪い。韓国は日本がどうこう言う前に自分が強くなればいい。そう思ってきたのですが、テレビであのヘイトスピーチを見た瞬間に、血が凍りつくようでした。日本人はそんな人たちだったのか。韓国人の中にも日本人を嫌う人はいます。反日デモもある。でも、あんなひどいことは言わないでしょう」

それはたしかにそうなのだ。

私自身もそうだし、韓国で長く暮らす他の日本人の友人たちも、反日感情で嫌な思いをすることはあっても、あのタイプのデモを経験したことはない。韓国人のデモは「批判」や「要求」が中心であり、「憎悪」や「排除」ではない。したがって自分の存在そのものが脅かされるような恐怖を味わうことはないのだ。

韓国で「嫌韓」在特会の存在がクローズアップされたのは二〇一三年の暮れ以降であり、日韓関係の悪化にともなって関心が高まった。それがどこまで影響しているかはわからないが、二〇一四年に入って、日本を訪れる韓国人の数は昨年より減少している。

ただ、最近になって、いいニュースも入ってきている。

七月八日、在特会らのヘイトスピーチに対して京都高裁は、一審につづいて賠償判決を出している。今後、法廷や国会でこの問題が扱われる機会が増えれば、これまでのような露骨なヘイトスピーチは減っていくのではないだろうか。

また韓国の側でも、日本への対決姿勢を露わにした中韓首脳会談（二〇一四年七月三日にソウルで行われた習近平国家主席と朴槿恵大統領の会談。朴槿恵政権初期は「中韓蜜月時代」とも言われていた）に対して、予想外に批判的な声が多かった。中国一辺倒は危険だという地政学的・軍事的な憂慮が、日韓関係のこれ以上の悪化を食い止めるかもしれない。

今の時代、それぞれ国益のために政策が揺れるのは仕方がないのだろう。その上で、日韓は成熟した大人の関係になれるといい。たとえ政治的に対立しても、週末は気楽に行き来して温泉やグルメやショッピングができるような関係は続いてほしい。勤勉で休みの少ない両国の人々にとって、近場で海外旅行ができるお互いの存在はとても貴重である。雨降って地固まる。叶わぬことを求めるより、できることに感謝する。市民は大上段に構える必要はないと感じている。

## ○追記

これを書いた二年後の二〇一六年九月、韓国のメディアに松山市の名前が登場した。韓国の水原市が姉妹都市であるドイツのフライブルク市に「少女像」を贈り、その建立の計画を推進中だったのが中止になったという。その背景には、同じくフライブルク市と姉妹都市関係にあった日本の松山市の強い反対があったという内容の報道だった。

この件に関してあらためて確認したところ、松山市のホームページに「市民の問いかけに対する市長の回答」という形での掲載があった。質問者は五〇代男性とある。

「慰安婦問題について、松山市の姉妹都市であるフライブルク市に少女像が設置されると聞きましたが、松山市から抗議していただけないでしょうか」

これに対する市長の回答は「このたび、松山市の姉妹都市であるドイツ・フライブルク市が、韓国・水原市からの寄贈による少女像を市立公園内へ設置することを決定したとの報道により、多くの皆様から様々なご意見をお寄せいただきました」と前置きしたうえで、「松山市としては像設置の決定が残念であることや、両市の友好関係が末永く続くことを願っているため、像設置を取り止めるよう要請を行いました」とある。

今、友人のお父さんに「松山市に行きたいけど」と相談されたら、以前よりもっと返答に悩むだろうと思う。